

市民説明会における総合計画試案に対する意見一覧

【開催概要】

日 程	説明会開催場所	参加人数
平成27年7月8日（水）19:00～20:30	津田生涯学習市民センター	12名
平成27年7月9日（木）14:30～15:30	楠葉生涯学習市民センター	12名
平成27年7月10日（金）19:00～20:30	蹉跎生涯学習市民センター	9名
平成27年7月12日（日）10:00～11:30	サンプラザ生涯学習市民センター	14名

【合計47名】

【意見一覧】

※以下の意見については、説明会での意見のほか、説明会開催にあわせて、直接、市に頂いた意見を含んでいます。

No.	区分	意見	事務局の考え・対応（案）
1	○総合計画(基本構想・基本計画(試案))全体	これまでの総合計画に比べると、概念的なものだけでなく、「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」を記載するなど、具体的でわかりやすい計画になっていると思う。	
2		少子高齢化の社会問題を踏まえ、出生数の減少や転出超過などの要因分析をしなければ、計画の実現性は乏しいと考える。	出生数の減少につきましては、核家族化や女性の社会進出、景気の動向など近年の社会・経済状況が要因と考えています。また、転入・転出に関するアンケートを実施し総合計画審議会資料として提出しました。
3		長期的には大きな夢を掲げ、短期的には具体的な目標の設定が必要であると考えます。	総合計画は本市のめざすべき姿やその実現に向けた施策など、まちづくりの指針となるべき長期計画です。基本計画では、少子高齢化・人口減少が進展していく中で、本市が選ばれるまちとして発展し続けるため、まちの魅力を高める4つの重点的に進める施策と28の施策目標を位置づけ、各施策目標には、行政や市民、市民団体、事業者の主な取り組みのほか、施策指標を設けることで実行性を高めています。さらに、基本計画の具体化につきましては、実行計画でお示しする考えです。
4		総合計画の具体的な部分が見えてこない。	
5		この総合計画では、市長、市議会のメッセージ、熱意、危機感が感じられない。	
6		枚方市は都市ブランドとして「健康医療都市」と「教育文化都市」を進めているが、総合計画を読んでも何をどうしたいのか漠然としている。枚方市が今後力を入れていく施策を少ない項目で市民に分かりやすく示すべきである。	
7		綺麗な言葉ばかり並んでいるが、この計画が実現できるとは思えない。例えば、計画の中に予算に関する記述がない。高齢者が増えると、年金生活者が増え、介護保険費なども増えていき、予算が足りなくなると思うが、どのように解決していくつもりなのか。 また、枚方市の環境において、適正な人口、人口構成はどのくらいと考えているのか。高齢者のまちをめざすのか、子どものまちをめざすのか、計画の中では示されていない。	
8		財政基盤がしっかりしていないと計画を推進していくことはできないように思う。市民が税金として負担することにならないか危惧している。	
9		各施策の数値目標や、財政についての現状把握・将来予測が示されていない。総合計画では、特に地方債の推移や依存度を明確にしておく必要があると考える。	施策指標として、基本計画の進捗を管理するための指標を検討しているところであり、今後、実行計画の策定とあわせて目標値を検討していく考えです。

No.	区分	意見	事務局の考え・対応（案）
10	○総合計画(基本構想・基本計画(試案))全体	計画の実現主体が、「市民、市民団体、事業者、行政」とされており、基本計画の中では、各施策目標に「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」とあるが、行政から校区コミュニティ協議会などへの押し付けのような感じを受ける。	少子高齢化・人口減少が進展していく中で、多様化・複雑化する地域課題の解決には、行政だけではなく、市民団体等の連携・協力は必要であり、ともにつながり支えあいながら本計画を進めるために、本計画の実現主体として市民・市民団体・事業者・行政としています。その上で、それぞれの主な取り組みをわかりやすくするため記載しているものです。
11	○基本構想(試案)「計画策定の背景と枚方市が抱える主な課題」	「経済・雇用環境の変化」の記載が現状を的確に表現できていないので、整理すべきである。	景気や雇用情勢に関する記述について、現状を踏まえた表記に変更しました。
12	○基本構想(試案)「計画の基本的な考え方」	「選択と集中」の視点を持った計画とあるが、誰が選択と集中を行うのか。また、必要のない施策を切り捨てるようなイメージを受ける。	今後、少子高齢化が進み、厳しい財政状況が見込まれる中で、多岐にわたる総合計画の施策の推進に際して、本市の特性などを踏まえ、重点的に取り組むべき施策を設定し、効率的・効果的な施策展開を進めていくという考えです。
13	○基本構想(試案)「計画の構成と期間」	基本計画を具体化する「実行計画」の期間（4年間）の説明で、「市長の任期とあわせたとあるが、総合計画の重みを考えると、記載がふさわしくない。	ご指摘の趣旨を踏まえ、表記を整理しました。
14		「基本計画」が12年間、「実行計画」が4年間というが、もう少しシビアな見方が必要だと思う。計画の実行性という点では、基本計画は少なくとも12年間ではなく、その半分の5、6年間くらいの期間で実現するという姿勢が必要である。実行計画の期間も同様である。	
15		計画期間は、「基本計画」が12年間、「実行計画」が4年間であるが、市長の任期は4年間であるから、12年間は3期分に相当する。市長が変われば、計画はどうなるのか。市長が変わっても、計画が大きく変わらないように、多くの市民のコンセンサスを得ながら、50、100年という長期的な視点でまちづくりはおこなっていくべき。そうでなければ、財源の無駄遣いになりかねない。	
16	○基本構想(試案)「めざすまちの姿」	サブタイトルの「住み続けるんやったら、」は市外の人を呼び込む視点がない。また、「世代をこえて」と「みんなに」は趣旨が重複している。サブタイトルはなくてもよい。	「めざすまちの姿」については、ご指摘の趣旨やそのほか市議会などからのご意見を踏まえ、サブタイトルを前段の説明文で明確にするなど、よりわかりやすい表現に修正しました。
17	○基本計画(試案)全体	各施策の横のつながりが大切であり、そういった視点で計画を作成してほしい。例えば、防犯灯をLED化すると、白内障の人はまぶしく感じることもある。これは電灯の傘を深くすると下方向だけ照らすので解決することから、防犯と高齢者の施策の連携が必要である。また、自転車について、長尾津田線は急勾配（7%）であり、道路交通と高齢者の施策の連携が必要など、それぞれの施策だけで考えると、部分的には良いかもしれないが、結果的に危険性が高まったり、経費が余分に必要になったりする。	各施策目標については様々な部門にまたがり相互に関連することから、「3. 部門別の取り組み」の説明文において、横断的な視点を持ちながら、効率的・効果的に取り組みを進める趣旨の記載を追加しました。
18		税収増に向け、企業誘致、労働人口増などの施策を具体的にどう進めていくのか。豊かな財政で、安全に住みよい都市づくりに励んでもらいたい。	重点的に進める施策として「4. 人々が交流し、賑わいのあるまちをつくる」を位置づけており、魅力あるまちとなるよう取り組みを進める考えです。
19		東部地域では、豪雨により2年続けてがけ崩れの被害があった。また、東部のインフラは劣化し、下水道が溢れ道路が陥没するなどしている。このような安心して住めないような地域には人は集まらないのではないのか。東部の現実を確認した上で、枚方にふさわしい計画を作してほしい。	施策目標19の中で東部地域についてお示しするとともに、施策目標4の道路整備や施策目標5の都市計画マスタープランの改定において、個別課題を踏まえ対応していく考えです。

No.	区分	意見	事務局の考え・対応（案）
20	○基本計画(試案) 「重点的に進める施策」	転出が多いということは市に魅力がないということ。第5次総合計画をもっと魅力的なものにしてほしい。第5次総合計画では、寝屋川市など周辺都市との違い、枚方市に住むメリットなど、何を目玉商品として打ち出すのか。総花的ではなく、もっと焦点を絞った計画にしてはどうか。	本市における最重要課題の一つである人口減少への対策を進めるため、基本計画において、「重点的に進める施策」を設け、4つの施策を進めていく考えです。
21		枚方市は、若年層と高齢者のどちらに重点を置くのか。今後、税収増が望めない中では、若い人や女性の力を活用するほか、既得権を排除するなど、今までにない発想で取り組んでほしい。	
22		「誰もがいつまでも健康に暮らせるまちをつくる」とあるが、「誰もが元気で明るく楽しく健康で暮らせる」というのが大事ではないか。楽しんでない人の方が多いと思う。楽しいことは元気にやると思うので、ぜひ「楽しむ」という文言を入れてほしい。	
23		計画策定の背景として、「少子高齢化・人口減少の進展」とあるが、そもそも少子化と高齢化は別問題である。少子化は国としての問題でもあるが、枚方市として少子化問題を総合計画に記載するのであれば、経済的な支援など具体策を提示すべきである。	
24	○基本計画(試案) 「施策目標1. 災害に対する備えができて いるまち」	計画が現実とかけ離れているように思える。例えば、楠葉はかつて沼地であったため、地震等が発生すれば液状化が予想されるが、その際にどうするのか具体的に書かれていない。避難場所として指定されている学校も池を埋め立てて建てられているため、液状化するだろう。そこに避難するという事になっているが、現実的ではない。他にも雨水排水や下水、交通環境など、どれをとっても現実とのギャップがあり、具体的にどのように計画が進行していくのかが見えてこない。	施策目標1における雨水管やポンプ場などの計画的な整備を進めるため、実行計画において具体化を図っていく考えです。
25	○基本計画(試案) 「施策目標4. 安全で 快適な交通環境が 整うまち」	京阪沿線とは違い、東部は過疎地域で、高齢者の割合が多い。地域によって状況が全く違うことを分かってほしい。高齢で車に乗れなくなると、病院にも行けず、毎日の生活ができない。それをどうしたら解決できるか、全く見えない。	施策目標4において、渋滞解消に向け、幹線道路の整備を進めるため、実行計画において具体化を図っていく考えです。
26		津田では道路の渋滞が一番の問題である。第二京阪道路ができれば解決すると思っていたが、いまだに解決には至っていない。信号機の問題とかもあると思うが、関係機関と連携するなどして、渋滞を緩和してほしい。	
27		枚方大橋南詰が渋滞するなど混乱しており、問題だと感じている。	
28		新名神高速道路の計画があるが、これは枚方市としてはメリットがないように思う。楠葉はくずはモールができたことによって交通量が増え、南行き、東行きともに渋滞するようになった。原因は、京都守口線との接続だと考える。楠葉から高槻方面に渡れるようになれば、楠葉のみならず、枚方大橋の渋滞も緩和されるように思うので、ぜひ淀川渡河橋の計画は進めてほしい。	
29	○基本計画(試案) 「施策目標6. 誰もが いつまでも心身とも に健康に暮らせるま ち」	枚方に医療と言語の知が集約され、まちの活性化につながればいい。	施策目標6において、医療機関や医療系大学等の関係団体が連携した「健康医療都市ひらかたコンソーシアム」による健康増進に係る取り組みを進めていきます。
30	○基本計画(試案) 「施策目標8. 安心して 適切な医療が受け られるまち」	「課題」の欄で、「認知症などの人が療養するため」とあるが、表現が不適切ではないか。	ご指摘の趣旨を踏まえ、「認知症などの人が住み慣れた地域で安心して暮らしていくため」と表現を修正しました。

No.	区分	意見	事務局の考え・対応（案）
31	○基本計画(試案) 「施策目標9. 高齢者が地域でいきいきと暮らせるまち」	これからの地域における課題としては、防災と認知症が重要だと考える。特に、行政は認知症対策に取り組む地域への支援を充実すべきである。	施策目標9において、認知症に対する正しい知識や予防方法等の普及・啓発、地域での認知症予防の取り組みへの支援を進めていきます。
32	○基本計画(試案) 「施策目標13. 平和の大切さを後世に伝えるまち」	「平和の意識の醸成」とあるが、「醸成」では平和の大切は伝わらないと思う。単に、戦争の悲惨さを後世に伝えるだけでは平和な社会を実現することはできない。戦争は、国家間の外交問題等の武力解決方法の一つであり、政治的なものである。戦争が起こったこれまでの時代背景を学びながら、なぜ戦争が起こったのか、どうすれば戦争が起こらないのかということをもっと積極的に考え、関与していくことが平和社会の実現につながると思うので、そういった取り組みを検討してもらいたい。	施策目標13における平和に関する啓発を推進していく中で、ご意見を参考に組み込んでまいります。
33		子どもや若い世代に関する施策について、項目数が少なく、内容も目新しいものがない。そういった世代が夢を持てる内容になっていない。	
34	○基本計画(試案) 「施策目標15. 子どもたちが健やかに育つことができるまち」	少子化対応ではなく、少子化対策を行い、平成30年には保育需要が減少する予想を打ち破る必要がある。これは行政の責務であり、「人口減少が進む中であって」では、あまりに消極的過ぎて、増やしてやろうという意識を感じない。	少子化施策につきましては、重点的に進める施策であり、施策目標14から16において、積極的に取り組む考えです。
35		少子化を解決するには、もっと産み育てやすい環境をつくるのが重要である。枚方市では学生が大学卒業とともに転出することが多いが、枚方が産み育てやすい環境であることを知ってもらうことで、その状況は変わるのではないかと。また、保育所や認可外保育園を増やしたり、支援することで、働きながらでも子育てがしやすい環境をつくってほしい。	施策目標15における教育・保育に係る量の確保と質の改善を推進していく中で、重点的に取り組む考えです。
36		高齢者施策も大事だが、子どもや若い人たちが輝ける、喜んで枚方市に住んでいける施策に力を入れてほしい。枚方市から他市への流出人口が多いと聞くと、子どもや若い人たちにメリットの多い施策をやっていくべき。例えば、小中一貫校に行きたい人は多いので、公立のモデル校を設置すれば、少しでも人口を増やすことにつながると思う。	施策目標16における小中一環教育を充実していくために、実行計画において具体化を図っていく考えです。
37	○基本計画(試案) 「施策目標16. 子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち」	英語教育よりも、子どもたちに学ぶことや知識・見識を身につけることの楽しさを知ってもらうことが大事なので、貧困児童や非行児童の支援にも力を入れてほしい。	施策目標15や16における子育て・教育の施策を推進していく中で、ご意見を参考に組み込んでまいります。
38		子どもの豊かなコミュニケーション能力を育むためには、国語力があらゆることのベースにあり、日本の文化をどれだけ発信できるかが国際競争力にもつながる。中途半端な英語力は何の意味もない。まずは、しっかりと国語力を身に付ける必要がある。	施策目標16の取り組みの方向における「正確に理解・表現するための言語能力の育成」を進める中で、ご意見を参考に組み込んでまいります。
39	○基本計画(試案) 「施策目標17. 誰もが文化芸術やスポーツなどに親しみ、学び、感動できるまち」	地域では自治会や校区コミュニティなどを取りまとめるリーダー的な人材が不足している。また、地域を担う人材を育成するためには、コミュニケーション能力が不可欠である。そのためには、担い手として期待できる女性が、さまざまな経験を積むことができる機会づくりとして、学ぶ喜びを醸成できる場の提供が必要である。	ご意見につきましては、施策目標17における取り組み方向に基づく、市民による生涯学習の支援の参考とさせていただきます。
40	○基本計画(試案) 「施策目標24. まちなかのみどりを育てるまち」	枚方市には大きな公園が少なく、子どもたちが走りまわって遊べるような場所がない。	施策目標24における公園の整備を進めるために、実行計画において具体化を図っていく考えです。

No.	区分	意見	事務局の考え・対応（案）
41	○基本計画(試案) 「施策目標25.ごみを減らし、資源の循環が進むまち」	ごみ分別の啓発については、水資源やリサイクル処理費用などが多大に必要となることから、効率的な処理と言えないところがあるので、今後の取り組みとしてはふさわしくないと考える。	施策目標25における循環型社会の形成に向け、ごみの減量・分別の啓発推進を進めていく考えです。
42		「4R」とあるが、英語ではなく日本語で、もっと分かりやすい表現にするべきである。	
43	○基本計画(試案) 「計画推進2.市民による活発なまちづくり活動を支援します」	校区コミュニティ協議会が活動をする上で中核となっているのは自治会であるが、計画の中には自治会という言葉が登場しない。市の全ての施策は、自治会はあくまで任意団体という捉え方で実施されていると考えるが、これを転換する必要があるのではないかと。市民がほぼ100%加入するようなかたちに積極的に働きかけていかなければ、計画の基本が達成されず、絵空事となってしまいかねない。	多様化・複雑化する地域課題に対応していくためには、さらなる市民のまちづくりへの参画が重要であることは認識しており、ご指摘の趣旨を踏まえ、「計画推進2.市民による活発なまちづくり活動を支援します」の行政の主な取り組みに、「市民の地域活動への参画に向けた啓発」を追加しました。
44		氷室地区ではまちづくり、農業、里山などの問題があり、それぞれ計画はあるが、実現できていない。行政と市民との協働がなければ、計画は進まないし、地域の活性化は実現できない。	
45	○基本計画(試案) 「計画の進め方」	今後の計画につなげるためにも、各施策の取り組みについてのPDCAの仕組みが必要である。	ご指摘のとおり、本計画の進行管理について現在、検討しているところです。

【計画を推進する際に参考とする意見】

(個別の事業に対する意見や事業提案等については、今後の事業検討の際の参考にさせていただきます。)

- ・ 今後、高齢者が増加することから、憩いの場として、イングリッシュガーデン風の公園を整備するなどの取り組みができればよいと思う。
- ・ 枚方のまち全体を展望できる市内唯一の場所である国見山をもっと活用して、市民の思い出づくりができる場所となるような仕組みが必要だと考える。
- ・ 枚方市の競争入札参加資格として「過去2年間以上の営業実績」を求めているが、他市に比べて、条件が厳しいように思う。枚方で創業した企業が他市の入札参加資格を得て、地元枚方の入札参加資格が得られないという状況がある。創業支援、インキュベート、雇用創出の観点から、参加資格を緩和してはどうか。
- ・ ひらかたパークの「大菊人形展」には、かつておおよそ85万人の来場者数があり、東京の人にも枚方というまちを知ってもらうきっかけとなっていた。ゴルフトーナメントや花火大会もなくなった今、市外への枚方市のプロモーションとしては、「大菊人形展」が良いように思う。市民、行政、事業者ともに再開していけるように取り組んでいってはどうか。
- ・ 楠葉並木には現在、葬儀場問題が発生している。枚方市はなぜ第一種低層住居専用地域で公園の隣、商業施設の近くという立地に葬儀場の建設の許可を与えたのか。重点施策の「安心して子どもを産み育て、子どもが健やかに成長できるまちをつくる」や「人々が交流し、賑わいのあるまちをつくる」に反しているのではないか。枚方市は他市に比べて、建設に関する規制が遅れているように思う。環境等を守るために規制を行うことも必要だということを知りいただき、まちづくりを進めていただきたい。
- ・ 市民全員がまちづくりに参加しないことには、計画に書かれてあることが達成されずに終わってしまう。校区コミュニティ協議会に参加することを条例で決めるなどはできないのか。
- ・ 枚方市は府内で4番目の人口規模の自治体であるが、実行力に欠けている。例えば、法定後見人に関することなど、吹田や豊中、岸和田などは取り組みが早く、それらと比べて枚方市は対応が遅いという印象がある。
- ・ 市立ひらかた病院は、受付と診療の連携がばらばらで、複数の診療科で診察を受ける場合、待ち時間が長く、長時間にわたり待合で待機しなければならない。また、重症や軽症など様々な患者が同じ場所に待機している。そのほか、エスカレーターの途中の太陽光の画面などレイアウト上、危険な箇所もある。民間の病院を参考にしながら患者がリラックスできるような空間づくりを図った方がよい。
- ・ 空家を住宅としてだけでなく、コンバージョン等をして商業施設に活用することについても考えてはどうか。
- ・ 枚方市・交野市・寝屋川市は文化的にも地政学的にも一体であることから、3市の公共施設の会議室の相互利用など市民活動分野において一体的に運用することはできないか。
- ・ 枚方市駅前のタワーマンション（行政施設、公共施設、劇場、ホテル等）の整備など、思い切った施策を考えてほしい。
- ・ 枚方市の国際化を進めるため、特定の都市との提携により、情報の発信・受信を充実させ、観光客の誘致（大阪・京都の中間都市としてホテル建設）や、有名なお土産となる特産物の開発などに取り組んでほしい。
- ・ 行政に対する市民からの提言・要望など、自治会と行政が協働しながら、その対応状況をインターネットで示し解決していくようなシステムの構築について、計画に取り入れてもらいたい。
- ・ 保育ママを増やすには、地元だけでなく子育て世代にとって預けやすくなるよう京阪電鉄や地元中小企業と連携してやってほしい。
- ・ 市内病院の患者の在院日数について把握しているのか。在院日数を減らしていくことは、財政面でも意義がある。単に医療現場と連携するというだけでは意味はないように思う。
- ・ 「誰もがいつまでも健康に暮らせるまちをつくる」の具体的な取り組みとしては、夕張市の事例を参考にしてほしい。
- ・ 枚方市では、市内12か所で「地域子育て支援拠点事業」を実施しているが、交通手段がなく拠点にいけない保護者は、子育てに関する十分な情報を得ることができない。施策目標15の取り組みの方向で示すように、「地域の子育て支援を進める」ということであれば、地域で活動している認可外保育園にも積極的に子育てに関する情報を提供していく必要があると考える。
- ・ 子育て支援について、第三子支援というのはよくある取り組みではあるが、まずは、第一子に対する支援を手厚くしていくべきではないか。結婚前後の若者夫婦にとっては、第三子支援というのは非常に遠く感じるものである。第一子の重点支援ができれば、そこから、第二子、第三子へとつながっていき、本当の意味での少子化対策につながっていくと考える。

- ・枚方市は中核市となって教職員の研修を行えるようになったが、未だ研修を行える体制にはないと聞く。また、大阪府の教職員の給与の低下に連動して、教職員の質（コミュニケーション能力等）も低下している。教職員の現場では、業務多忙のため、研修に行く余裕すらない状況ではあるが、枚方市としてはこうした状況に対応する取り組みが求められている。
- ・校区コミュニティ協議会は市内に45あり、現在、予算は一律に分配されているが、限られた予算であるから、活動実績を評価した上で、予算分配してはどうか。
- ・美術館の収支を細かくチェックし、税金の無駄遣いとならないようにしてもらいたい。
- ・美術館は香里ヶ丘に建てるのではなく、枚方市駅前の再開発ビルの方が、駅近で多くの人の目に触れるし、香里ヶ丘が画一的なまちにならない。
- ・香里では住宅開発に伴い、緑が伐採されている。また、美術館を建設するにあたっては緑を伐採しようとしており、住民の反対運動が起こっている。緑が減ったことにより、地域の魅力が減り、出ていく人も増え、空き家も増加してきている。基本構想で、「自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち」と掲げられているが、市として開発を規制するなどの対応をしてほしい。
- ・まちなかの緑については、地域に住む人たちが自分たちで保っていくよう、市民に啓発していくことも必要だと思う。
- ・災害時には校区コミュニティ協議会よりも自治会や近隣住民が重要な意味を持つことから、自治会の位置付けをもっとしっかりと考えてもらいたい。
- ・楠葉では葬儀場問題があるが、これは法律や条例を無視している。市民からすると市が業者寄りの対応をしていると考えられ、市民の声を聞いていないように思う。しっかり条例等で規制してもらいたい。
- ・楠葉地域は、これまでの浸水被害のとおり、雨水排水力が弱く、ポンプなしには今後も浸水するリスクが高い。いくつかポンプも稼働しているが、淀川に直接排水できるポンプの設置を検討してほしい。
- ・地域において、子どもから高齢者まで多世代のつながりを育むには、コーディネーターが必要である。それを担うのは、校区コミュニティ協議会や自治会の会長だけでなく、地域活動を行っている事業者でもよい。そういった事業者などのまちづくり活動に対して行政から何らかの支援ができれば、持続的に地域のつながりを育んでいくことができると考える。
- ・地域資源として大学が例に挙げられているが、大学生の地域貢献は一部の地域を除き、あまり期待できないのではないかと。また、在学中に枚方市への定住につなげることも厳しいと考える。やはり、市への愛着は小中学生時代の経験から育まれるものであって、その時代に地域との関わり（防災訓練など）を持つような取り組みが重要である。

【計画の策定手法などに関する意見】

- ・具体性に乏しい計画だという印象がある。市民参加型をもっと広げていかないと、抽象論、一般論に終始してしまう。宝塚市や寝屋川市などと比べて、枚方市は旧態依然としているが、その要因は一つには市長をはじめとした職員の姿勢があげられる。一方で、市民の側にも問題がある。説明会の参加者数からも分かるように、まちづくりに関心がある人が少ないのも問題である。
都市計画について、もっと行政が地域に入っていく、市民とともに計画を練り上げていく必要があるのではないかと。そうすることで、行政と市民がまちづくりに対する意識が高まり、ともに成長していくことができると思う。
- ・枚方市の規模であれば仕方がないと思うが、総合計画は漠然としていて、説明を受けても具体性を感じることができなかった。もっと市民の参加を促し、その意見を聞いた上で計画に反映するとともに、今までの取り組みの結果についても説明がほしかった。
- ・今まで、総合計画審議会やまちづくりワークショップのことを知らなかった。今回の説明会の回数も少なく、広報も不十分である。総合計画の策定状況について、市民との情報の共有化を進めてほしい。
- ・説明会での意見は行政全体で受け止めるべき。庁内に持ち帰り、意見内容を確認・集約し、共有してほしい。
- ・現行の第4次総合計画の総括を提示し、その内容を踏まえて第5次総合計画を策定する必要があると考える。
- ・第5次総合計画は第4次総合計画を引き継ぐ計画であるから、第4次総合計画において、何ができて何ができなかったのか整理すれば、課題が何なのか良く分かると思う。例えば、長尾津田線は都市計画決定されてから何十年たってもできない。計画を作れば、年次ごとのスケジュール管理をしないと行けない。かつては豊中などの阪急沿線よりも枚方に住みたいという時期もあったが、今はそういう人は減っている。それは、行政がきちんと仕事できていないのではないかと。